

保育学生が絵本リスト作成時に用いるキーワードの分析(2)

－「てぶくろ」に付されたキーワードから考える－

森木 朋佳

A Study of keywords From “MITON” Chosen by Child Studies Major Students

Tomoka Moriki

本研究は、「保育のための絵本データベース」を作成するために取り組んでいる、絵本に付されたキーワードの収集と分析を行い、保育者養成課程にある学生が、福音館書店の「てぶくろ」にどのようなキーワードを利用しているか明らかにしようとしたものである。

学生が作成した絵本リストからは、43種類のキーワードが出現し、絵本のタイトルや、絵本に出てくる動物などに関するキーワードが多く含まれていた。これは、森木（2021）と同様の結果となった。また、絵本「てぶくろ」に付されたキーワードの特徴として、「わたしもいれて」や「あなたは」、「どうぞ」といった、絵本の中で繰り返される場面のせりふが出現したことから、繰り返されるやりとりを表す内容も、キーワードとなりうることが示唆された。

登場人物などの情報に加えて、印象的なせりふを記録しておくことも、おはなしの内容から絵本を検索しようとするとき手がかりになるものと考えられる。

Key Word : [子どもの読書活動の推進] [保育者] [てぶくろ] [キーワード]
[絵本リスト]

(Received October 21, 2024)

はじめに

2001（平成13）年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画が、おおむね5年ごとに策定されることとなった。

2002（平成14）年8月に子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第8条第2項の規定に基づき、『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』（以下基本計画と示す）が示された。「第3章 子どもの読書活動の推進のための方策」では、家庭、地域、学校における子どもの読書活動の推進について触れられており、幼稚園や保育所における子どもの読書活動は以下のように示されている。

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻（〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号）

カ 幼稚園や保育所における子どもの読書活動の推進

- ① 幼児期に読書の楽しさと出会うため、幼稚園や保育所において、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されているように、幼児が絵本や物語などに親しむ活動を積極的に行うよう、教員及び保育士の理解を促進する。あわせて、幼稚園・保育所で行っている未就園児を対象とした子育て支援活動の中でも、読み聞かせ等を推進する。

また、第3章「2 子どもの読書活動を推進するための施設、設備その他の諸条件の整備・充実」では、幼稚園や保育所における図書スペースの確保と選書の工夫の項目が設けられ、以下のように記載されている。

ウ 幼稚園や保育所における図書スペースの確保と選書の工夫

幼稚園や保育所においても、子どもが絵本等に親しむ機会を確保する観点から、安心して図書に触れることができるようなスペースの確保に努めるとともに、保護者、ボランティア等と連携・協力するなどして、図書の整備を図るよう促していく。また、図書館等の協力を得て、発達段階に応じた図書を選定することへの配慮も促していく。

『保育所等関連状況取りまとめ（令和6年4月1日）』¹⁾によると、保育所等利用率は全年齢平均で54.1%、前年度の同報告では52.4%と就学前児童数の過半数を占めており、幼稚園や保育所等が、乳幼児期の子どもの絵本等に親しむ場として果たしている役割は大きい。

基本計画は、第二次（2008（平成20）年）、第三次（2013（平成25）年）、第四次（2018（平成30）年）に続き、2023（令和5）年3月には、第五次が示され²⁾、都道府県に続いて、市町村においても次の計画が策定される時期を迎えている³⁾。令和3年度末時点での市町村における「子どもの読書活動推進計画（以下推進計画と示す）」の策定状況は、市93.9%、町村74.4%である。

幼稚園や保育所での取組みに加えて、公共図書館や公民館等を中心としたおはなし会や定期的な読み聞かせ活動の実施、ブックスタート事業への取組み等⁴⁾によって、乳幼児期から絵本等に親しむ機会の提供や環境の整備は、ある程度進められてきたといえる。

伊藤・鈴木（2019）は第一次から第四次の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を対象に、保育に関する記述から読書環境の整備に関連する記載を抽出し検討を行い、内容に大きな変更はないものの、主な変更点として第四次基本計画では「発達段階に応じた取組」が掲げられ、「保育士」の表現が用いられなくなったこと、第三次、第四次基本計画では「幼児」でなく「乳幼児」の表記となったことの3つを見出すとともに、「子どもは周囲の大人の手助けなしには読書に出会えない」としている⁵⁾。第五次基本計画では、これまでの基本計画を引き継ぎながら、不読率の低減、多様な子どもたちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子どもの視点に立った読書活動の推進の4つが基本方針として掲げられている。「第4章 子どもの読書活動の推進方策において」では、「様々な機関や人々の連携・協力が不可欠である」とした上で、地域の学習資源・人的資源の活用が謳われており、子どもが読書に出会う手助けを行う大人の一人として、保育者の役割への期待はこれまで以上に大きくなって

いくと考えられる。

松岡は「子どもと絵本」の中で、子どもと本の出会いについて次のように述べている⁶⁾。

子どもが最初に本と出会う場所は、家庭です。〔中略〕うちのなかに本があり、親が本を読んでいる姿を見る。それが、子どもには、本への第一歩です。〔中略〕／本が、身のまわりに普通にあるものとして自然に子どもの意識に入ってくる。それを読むという行為にも、まわりのおとなたちがしている日常のあたりまえのこととしてなじんでいく。それがいちばんです。

長年の実践に裏付けられたこのことばは、子どもの周りの大人の読むという行為が、子どもと本を結びつけていくことを示している。就学前の子どもの過半数が保育所などを利用する時代にあって、幼稚園や保育所等で行われる保育者による日常的な読み聞かせは、「自然に子どもの意識」に入り、「あたりまえのこと」となっていくと考えられ、家庭でのそれと同様に子どもと本を結びつけるものとなる。このように考えた時、保育者がどのような絵本を選び、子どもに手渡すかは、乳幼児期以降の子どもの読書活動に少なからず影響を与えるため、子ども発達過程や実態に沿って読み聞かせが行われることが望ましいといえる。

ところで、筆者は保育者養成課程に所属する学生と授業の中で、絵本リスト作成に継続的に取り組んでいる。これは、「～と…が出てくる絵本をもう一回読んで欲しい」とリクエストされても、タイトルが思い出せずに読んであげることができなかつたり、自分の思った絵本と子どもの思っていた絵本が一致しなかつたりした経験を筆者や学生が、何度かしたことがきっかけとなっている。絵本リストには、学生自身が読んだ絵本のタイトル、作者などの情報に加えて、その絵本を示すキーワードを3つ記入する。その絵本を想起させる言葉を一緒に記録しておくことで、めあての絵本を探しやすくしようとする試みである。

子どもや学生が読んで欲しい絵本や探している絵本を伝えようとするとき、例えば「うさぎが出てきて、ワンピースを作る本」、「へびの本、ながいの」などの表現をすることがある。実際の例では、前者は「わたしのワンピース」にしまきかやこ（福音館書店）で、後者は「へびながすぎる」ふくながじゅんぺい（こぐま社）であったが、提示されたキーワードからどの絵本を想起するかは、個人の読書経験の影響を受けるであろうことは容易に想像される。

森木（2021）では、「三びきのやぎのがらがらどん」に付された第一キーワードから第三キーワードの分析をおこなった。複数の学生が作成した絵本リストを集約し、第一キーワードには、登場人物を表す名詞が多く出現し、第二キーワード、第三キーワードへと進むにつれ、キーワードの種類（カテゴリー）が増えること、複数のキーワードを組み合わせることで、絵本を特定しやすくなることを示した。また、リストを集約しデータベース化していくことで、個人では思いつかないキーワードから絵本を検索できることを示した。絵本リストの作成は、授業での取組であるものの、保育者養成課程に属する学生が作成しているので、保育現場でも活用できる可能性が高い。集約した絵本リストが共有されることで、多様なキーワードから保育者自身が絵本と出会い、それを子どもたちに手渡していけるのではないだろうか。子どもの実態をよく知る保育者が、今このときに必要な、あるいは子どもたちの求める絵本を読み聞かせたり、

絵本リストを手がかりに選書したりしていくことで、その後の読書活動につながる土台が作られることが期待される。

以上から、本研究では、保育現場で活用できる絵本のデータベースを構築することを目指し、ひとつの絵本に対して、どのようなキーワードが付されるかを検討することによって、キーワードの広がり（幅）を明らかにすることを目的とする。具体的には、「てぶくろ」ウクライナ民話／エウゲーニー・M・ラチョフ絵、うちだりさこ訳（福音館書店）に対して、学生が付したキーワードを分析し、どのような語やことばが用いられているのかを明らかにしていく。

I. 研究の方法

1. 対象

2020（令和2）年から2024（令和6年）に「絵本の読み聞かせ」の授業を受講した学生（218名）から提出された絵本リストのうち、ファイルが開けないもの「てぶくろ」について情報が記載されていないものを除く203件を対象とした。年度別の受講者数と対象となったリスト数の内訳は表1のとおり。

表1 年度別の受講者数と対象となったリスト数

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	合計
受講者数（人）	64	44	34	44	32	218
対象となったリスト数	53	42	34	42	32	203

2. 方法

「てぶくろ」について情報が入力されたもの203件について、キーワード欄に記載されたことばを分析した。絵本リストではキーワードを記入する欄を3つ設けているので、キーワードを集計するにあたっては、「キーワード1」を第1群、「キーワード2」第2群、「キーワード3」第3群として取り扱った。また、群ごとに出現したキーワードは、グループ化して分類した。これは、森木（2021）で行った処理と同じである。

3. 倫理的配慮

絵本リストに入力された内容は研究を目的に使用することがあること、その際は統計的に処理し、個人が特定されることがない方法で取り扱うことを口頭及び提出先のwebサイト上に記載する方法で説明した。

また絵本リストは、授業の中で作成方法を説明した。作成・提出された絵本リストは成績評価の対象となるが、入力冊数のみを利用し、入力内容を評価対象とすることはない旨を合わせて説明した。

II. 結果

表2は絵本の所蔵場所別に集計したものである。最も多かったのは、短大図書館で163件

(80.30%), ついで家が21件 (10.24%), 公立図書館は6件 (2.93%) となった。絵本「てぶくろ」は、2022年4月の時点で172刷を数える絵本であるが、絵本の所蔵場所が「家」であった学生は全体の1割程度にとどまった。

表2 絵本の所蔵場所別集計

所蔵場所	出現数	%
短大図書館	163	80.30
家	21	10.34
その他	10	4.93
公立図書館	6	2.96
不明	2	0.99
実習準備室	1	0.49
合計	203	

表3は、第1キーワードから第3キーワードとして入力された語をカテゴリー化し、群ごとに出現数をまとめたものである。大分類として「主な登場人物」「自然」「せりふ」「行動」「数量」「おはなし」「テーマ」の7つのカテゴリーを設定した。

第1群では203個のキーワードが出現し、最も多かったのは「主な登場人物」に分類されたキーワードで184個 (90.64%) となり、次いで「自然」8個 (3.94%), 「せりふ」6個 (2.96%) となった。

第2群では203個のキーワードが出現し、最も多かったのは「主な登場人物」に分類されたキーワードで147個 (72.41%) となり、次いで「自然」19個 (9.36%), 「テーマ」12個 (5.91%) となった。

第3群では200個のキーワードが出現し、最も多かったのは「主な登場人物」に分類されたキーワードで109個 (54.50%) となり、次いで「自然」29個 (14.50%), 「行動」「おはなし」「テーマ」が14個 (7.00%) となった。第3群では、キーワード3が未入力となったデータが3件あり、第1群、第2群よりも出現したキーワード数が減少した。

いずれの群においても「主な登場人物」に関するキーワードが最も多く出現し、第1群から第3群へと進むにつれて、出現数に占める割合は減少した。「自然」に関するキーワードは第1群から第3群の全てに出現し、「主な登場人物」と異なり、第1群から第3群へと進むにつれて、出現数に占める割合は増加した。

表3 群別カテゴリーごとのキーワード出現数

第1群			第2群			第3群		
大分類	出現数	%	大分類	出現数	%	大分類	出現数	%
主な登場人物	184	90.64	主な登場人物	147	72.41	主な登場人物	109	54.50
自然	8	3.94	自然	19	9.36	自然	29	14.50
せりふ	6	2.96	テーマ	12	5.91	行動	14	7.00
行動	2	0.99	せりふ	11	5.42	おはなし	14	7.00
数量	1	0.49	おはなし	9	4.43	テーマ	14	7.00
おはなし	1	0.49	行動	4	1.97	せりふ	12	6.00
テーマ	1	0.49	数量	1	0.49	数量	8	4.00
	203			203			200	

各カテゴリーに含まれる出現語の詳細を、図1に示す。カテゴリー化するにあたっては、出現したキーワードは表記に差が見られたため、同じまたは似た意味で使用されていると考えられるキーワードはまとめて集計したところ、第1群から第3群までに、43種類のキーワードが出現した。群別に出現したキーワードの種類を見ると、第1群では14種類、第2群では30種類、第3群では36種類のキーワードが出現した。

第1群では、カテゴリーに含まれるキーワードの種類が最も多かったのは、「主な登場人物」で、「てぶくろ」「動物・どうぶつ」「うさぎ」「ねずみ」「いぬ」「かえる」「おじいさん」「ともだち」8種類となった。第2群、第3群でも「主な登場人物」に含まれるキーワードの種類が最も多くなったが、第2群では新たに「おおかみ」「きつね」「くま」と「犬の鳴き声」が出現し、第3群では「いのしし」が新たに出現した。

「自然」のカテゴリーには、第3群で「寒い」「外」が出現した。「テーマ」のカテゴリーでは、「譲り合い」各群に共通して出現し、第2群、第3群では「あたたかい」「思いやり」「優しい・やさしさ」が出現した。「おはなし」のカテゴリーでは、各群に共通して登場するキーワードは出現しなかったが、第3群では「家・おうち」の他に、「はしご」「片方」「手袋の向きが変わる」の絵本の画面に関するものと、「民話」「言葉のやりとり」「くりかえし」「不思議」「劇」のおはなしの構造に関係すると考えられるキーワードが出現した。

表4 群別「せりふ」のカテゴリーに出現したキーワード

第1群		第2群		第3群	
出現語		出現語		出現語	
わたしもいれて	1	わたしもいれて	1	わたしもいれて	1
私も入れて	1	いれて	6	私も入れて	1
僕も入れてよ	1	入れて	1	入れて	3
あなたは？	2	どうぞ	2	いれて	2
まんいんです	1	てぶくろにすんでいるのは	1	あなたは？	1
				どうぞ	3
				やってきました	1
	6		11		12

表4は、「せりふ」のカテゴリーに出現したキーワードをまとめたものである。絵本「てぶくろ」では、動物たちが次々にやってきて、だれが住んでいるのか尋ね、お互いに名乗り合い、てぶくろに入っているか尋ねるといった下記のようなやりとりが繰り返される⁷⁾。

そこへ かえるが ぴょんぴょん はねてきました。

「だれ、てぶくろに すんでいるのは？」

「くいしんぼねずみ。あなたは？」

「ぴょんぴょんがえるよ。わたしも いれて」

「どうぞ」

「せりふ」のカテゴリーには、このくりかえし部分で使われる「わたしもいれて」や「どうぞ」といったせりふが、キーワードとして記載されていた。

保育学生が絵本リスト作成時に用いるキーワードの分析(2)

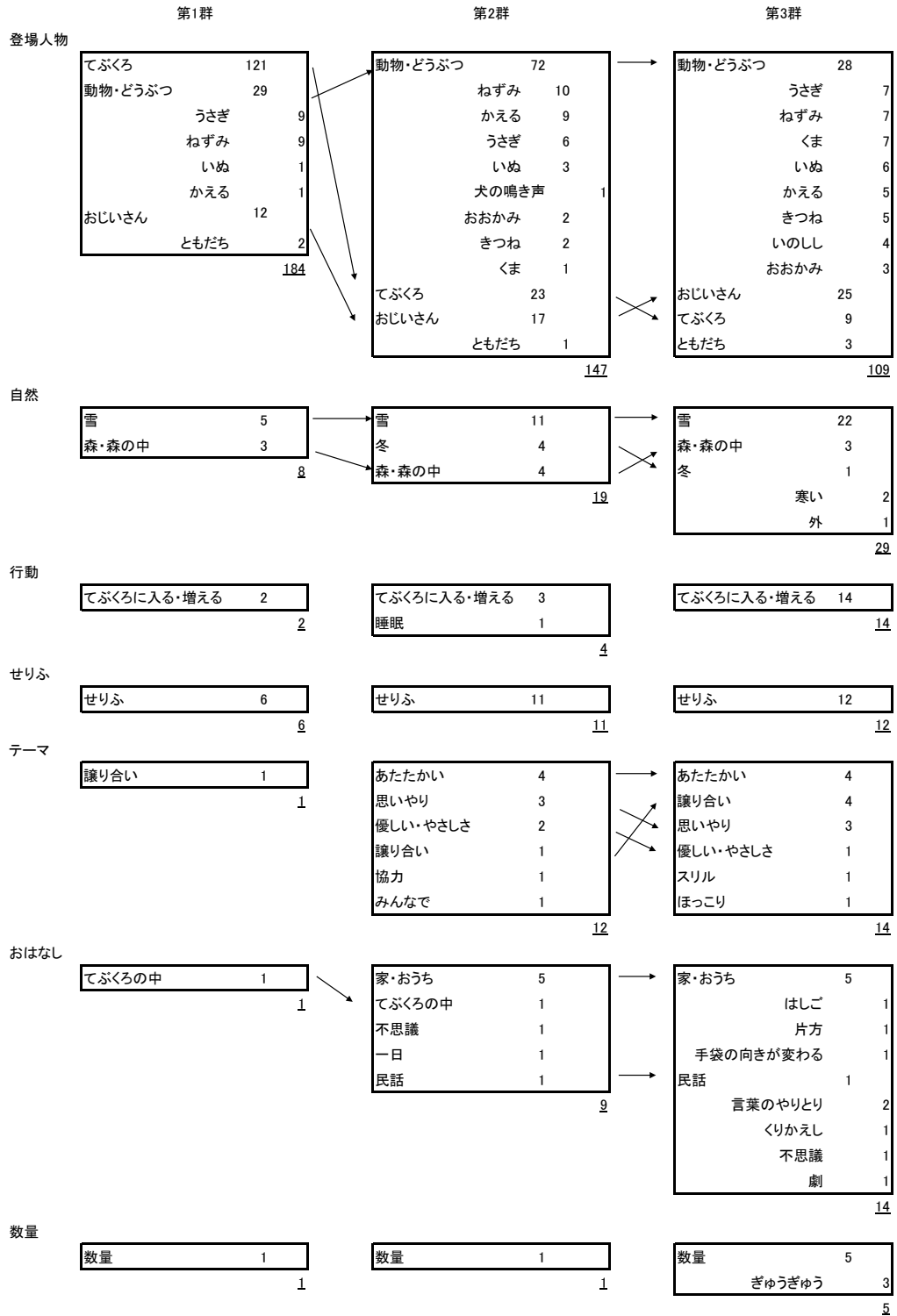


図1 各カテゴリーに含まれるキーワード

Ⅲ. 考察

まず、多く出現したキーワードについて検討したい。学生が作成した絵本リストから、キーワードを収集・分析したところ、合計で606個収集され、43種類のキーワードが出現した。さらにこれらをカテゴリー化すると、7つに分類された。

キーワードのうち、「主な登場人物」のカテゴリーに含まれるものが最も多く収集され、これらは第1群から第3群の全てで最も多くなった。第1群から第3群合わせて、「てぶくろ」153個、「動物・どうぶつ」129個、「おじいさん」54個の計336個出現し、全体の5.4割を占めた。「うさぎ」や「ねずみ」などの具体的な動物の名称まで含めると、計434個のキーワードが「主な登場人物」に分類され、全体の約7割となった。

絵本「三びきのやぎのがらがらどん」に付されたキーワードを分析した際にも、やぎやトロルを示す語が最も多く出現しており、森木（2021）で指摘した登場人物や登場する生き物は、絵本を検索する際に手がかりとなることが支持された。絵本「てぶくろ」での最頻出語は「てぶくろ」で、絵本「三びきのやぎのがらがらどん」では、「やぎ」であった。実際に学生たちが、その絵本について話題にする際に、「だるまさん」の絵本や「がらがらどん」の絵本など、タイトルの一部が用いられる場合が多いことと考え合わせると、タイトルに含まれる言葉がキーワードの頻出語となる可能性が示唆される。「てぶくろ」と「三びきのやぎのがらがらどん」の2ケースで結論づけることはできないが、読んだ絵本を記録する際にタイトルに含まれることを記録しておくことは、絵本を検索する際に手がかりとなると考えられる。他の絵本についても検証を続けていきたい。

次に、絵本「てぶくろ」にみられるキーワードの特徴について検討する。「主な登場人物」のカテゴリーには、「おじいさん」と「こいぬ」または「いぬ」が含まれている。絵本「てぶくろ」では、ねずみ、かえる、うさぎ、きつね、おおかみ、いのしし、くま七匹の動物が順に登場し、てぶくろに入る。第3群では、これら全ての動物がキーワードとして出現した。絵本「てぶくろ」の画面には、これらの動物の姿が描かれているが、「おじいさん」、「いぬ」は、絵本の冒頭と最後に登場するものの、絵本の画面上には描かれていない。先にも述べたとおり、「主な登場人物」のカテゴリーの中でも、「おじいさん」は比較的多く出現している。画面に登場していない存在が登場人物や登場する動物として認識され、キーワードとして使用されることは、絵本「三びきのやぎのがらがらどん」で確認されなかったため、絵本「てぶくろ」の特徴の1つである可能性がある。

特徴として、「せりふ」のカテゴリーが出現したことも上げておきたい。筆者はこれまで、例えば絵本「おしくらまんじゅう」の読み聞かせ場面で子どもたちが、「つぎいくよー そーれ」の箇所を、絵本「おおきなかぶ」では「うんとこしょ どっこいしょ」を、保育者と一緒に声に出して楽しいでいる様子に度々会っており、音で聞いて記憶に残りやすいせりふや言葉があるようだという実感を持っている。出現数は多くないものの、「いれて」「あなたは？」や「どうぞ」は、絵本「てぶくろ」で繰り返し登場する言葉であり、新たに登場する動物とのやり取りに使用されている。キーワードの収集と分析を続けていくことで、記憶に残りやすいせりふや言い回しを発見できると考えている。

おわりに

学生が絵本リストを作成する際に、どのようなキーワードを用いているのか、「てぶくろ」に付されたキーワードから検討してきた。使われやすいキーワードがあり、絵本「てぶくろ」では、「てぶくろ」が最頻出語となった。絵本リストは構成上、絵本のタイトルや作者の情報を合わせて記載しているので、ここで用いられている「てぶくろ」は、物語の舞台を指しているものと思われる。このことから、絵本のタイトルに含まれる言葉が、キーワードとして用いられている可能性が十分にあると考えられる。

ところで、絵本リストは、個人の絵本の記録としても有用性があるが、今回示したように集約することで新たな利用価値が生まれる。複数のリストからキーワードを収集することで、キーワードに広がり生まれ、個人のリストには記載されていないことばから絵本を検索できるツールになり得るだろう。

めあての絵本を探そうとすると、タイトルの一部がわかれば検索できるため、頻出語はもちろん手がかりになる。しかしながら、子どものつぶやきや、断片的な記憶から絵本を探そうとするときには、タイトルを思い出せないことが多いので、頻出語以外が重要な手がかりになるものと考えられる。例えば、今回出現したキーワードには、「家」「おうち」も含まれていた。絵本「てぶくろ」の画面では、てぶくろがだんだん家らしく変化の様子が描かれているが、てぶくろ＝家という直接的な表現は用いられておらず、テキストでは、「ここで くらすことにするわ」や「だれ、てぶくろに すんでいるのは？」等の表現が用いられている。

タイトルに含まれる語を除いて検索する、または子どものつぶやきをそのまま、あるいは、保育者が見当をつけた絵本のタイトルを入力し、どのようなキーワード使われているかを確認する方法と合わせて検索するなど、一定数のデータが集約された絵本リストは多面的な活用の可能性がある。

子どもの読書活動の推進という点から考えたとき、園で行われる読み聞かせの機会は、子どもと絵本の出会いを作る重要な機会の一つであり、保育者への役割期待は、今後一層大きくなっていくものと予想できる。ビックデータの時代にあって、絵本の検索サイト等を利用すれば、大抵は検索できてしまうものであろうが、目の前の子どもの発する語から、あるいは保育者自身の持つことばによる検索を行い、検索できなかったことを積み上げていくことで、より子どもの実態に即した絵本の読み聞かせを行うことができ、将来の読書活動への一歩につなげることができるのではないか。今後は、引き続きキーワードの収集を行い、検証を続けていくとともに、保育団体とも協力し、保育現場での利用の可能性についても探していきたい。

【註】

- 1) 『保育所等関連状況取りまとめ（令和6年4月1日）』ホーム＞政策＞保育＞保育所等関連状況取りまとめ及び「新子育て安心プラン」集計結果＞保育所等関連状況取りまとめ（令和6年4月1日）及び「新子育て安心プラン」集計結果

<https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/torimatome/r6>

- 2) 第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について（通知）（令和5年3月28日通知4文科教第1858号）
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00072.html
- 3) 子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条の規定に基づき、都道府県及び市町村は、それぞれ「子どもの読書活動推進計画」を策定するよう努めることとされている。
- 4) NPOブックスタートを通じてブックスタート事業（0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする）は、1,115自治体で実施されており、絵本の配付のみを行なう自治体を含めると全国1,511自治体で「赤ちゃんへの絵本贈呈事業」が実施されている状況が報告されている。
NPOブックスタート＞全国の実施状況
<https://www.bookstart.or.jp/coverage/>
- 5) 第一次から第四次の基本計画において若干の表現の変更は見られるものの、「保護者、教員、保育士等が読書活動に理解と関心を持つこと」という表現が繰り返し用いられている。
- 6) 松岡享子『子どもと本』（岩波新書1533）、岩波書店、2015、54頁
- 7) エウゲーニー・M・ラチョフ絵／うちだりさこ訳『てぶくろ ウクライナ民話』、福音館書店、1965年、5頁

【引用・参考文献】

1. 『保育所等関連状況取りまとめ（令和6年4月1日）』ホーム＞政策＞保育＞保育所等関連状況取りまとめ及び「新子育て安心プラン」集計結果＞保育所等関連状況取りまとめ（令和6年4月1日）及び「新子育て安心プラン」集計結果
<https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/torimatome/r6>
2. 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）（平成23年3月27日）
3. 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第一次）（平成14年8月2日）（平成23年3月27日）
4. 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）（平成20年3月11日）（平成23年3月27日）
5. 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）（本文）（平成25年5月17日）
6. 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）（関係資料）（平成25年5月17日）
7. 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（本文）（平成30年4月20日）
8. 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（関係資料）（平成30年4月20日）
9. 第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について（通知）（令和5年3月28日通知4文科教第1858号）
10. 第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（本文）（令和5年3月28日）
11. 松岡享子『子どもと本』（岩波新書1533）、岩波書店、2015
12. エウゲーニー・M・ラチョフ絵／うちだりさこ訳『てぶくろ』、福音館書店、1965年
13. マーシャ・ブラウン絵／せたていじ訳『三びきのやぎのがらがらどん』、福音館書店、

1965年

14. かがくいひろし『おしくら・まんじゅう』, ブロンズ新社, 2009年
15. A・トルストイ再話／内田莉莎子訳／佐藤忠良画『おおきなかぶ』, 福音館書店, 1966年
16. 伊藤明美, 鈴木佳苗『保育園の読書活動支援のための読書環境整備の指標の検討－「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」および保育園調査の分析－』, 「図書館情報メディア研究」, 17巻2号, 13～31頁, 2019年
17. 森木朋佳『保育学生が絵本リスト作成時に用いるキーワードの分析－「三びきのやぎのがらがらどん」に付されたキーワードから考える－』, 鹿児島純心女子短期大学研究紀要, 第51号, 89～101頁, 2021年

2～10の資料は, 文部科学省『子ども読書の情報館』>文部科学省発表データ

<https://www.kodomodokusyo.go.jp/happyou/hourei.html?page=1> より取得した。

